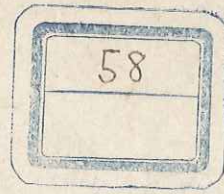


研究発表



こけしについて

四年四組朝一真理

敬学会賞第十九回入選作品

こ
け
し
に
つ
い
て

(研究をはじめたわけ)

山形のおみやげ店でたくさんこけし人形を売って
おりました。このほんとうにかわいらしいまるい
頭に棒のような胴体のかんたんな形の木の人形
はどんなふうにして、出きたのかしらべてみたくな
りました。

そこで人形やさんに行って、作り方を、見せて
いたたたいたり、しばたさんに色いろなこけし
人形をみせていたたたいたりして、次のよう
なことがわかりました。

(研究につかったもの)

せいそつ見学 …… 岩城人形店

本の名前 …… 東北山村^{しやうらくこう}聚落^{そく}構造^{こうぞう}、杉本^{すぎもと}著

せん し ふか さわ かなめ ちよ
羨^{せん}こけし、深^{ふか}澤^{さわ}要^{かなめ}着^{ちよ}

1 人形字生のため、しばたはじめさんのもっていら
れる、各種^{かくしゅ}こけしを見せていたたたきました。

▲こけしのよび名▲

こけしというのは一口にいつて木土也ひ
きろくろの人形で東北の山村の子供た
ちのために先祖^{せんぞ}が作^そってくれた素朴^{そぼく}な人
形です。

よび名は戸所^{ほら}によって、原ノ町^{はらのまち}(でころこ)
本莊^{ほんじょう}(きぢほ)山寺^{さんじ}(でき
のほう)酒田^{さけ}(こけす)仙台^{せんだい}(きほこ、きん
ほこ)鳴子^{なりこ}(こけす)湯沢^{ゆざわ}(こけしほん
ほ)蔵王高湯^{そうこうとう}(こけし)青根^{あおね}(にんぎょ)
福島^{ふくしま}(きでこ)などなまってよぼれてい
ますか、中でも多い(こけす)を木達^{きだち}は、
(こけし)と直してよんでゐます。

▲産地と種類▲

お人形はそれぞれ産地によって種類が

ちがいます。こけしも同じです。

種類は

口鳥子系^{くちどり}・弥次郎系^{やじらう}・遠刈田系^{はつかり}・土湯系^{どゆ}・
南部系^{なんぶ}・津軽系^{つがる}・木地山系^{きぢやま}・作並山形系^{さけやま}とあり

とありそのおもな産地は、

口鳥子^{くちどり}⇒^{せみ}雀鳥岡・大湯・瀨見
弥次郎^{やじらう}⇒^{かまさき}鎌先・^{しらぶたか}白布高湯・^{せみ}小野川・白石
遠刈田^{はつかり}⇒^お蔵王・^あ青根・^{のぞき}及位・^お秋伊保上土
土湯⇒^{いい}中の沢・^{さか}福島・^{さか}食反坂・^{さか}温海
南部系⇒^{もろ}花巻・^{もろ}盛岡・^{もろ}一ノ関
津軽系⇒^{かに}ぬる湯・^お大鰐・^おきいやま・^お小田
湯沢・かわつらお・大食官

作並山形系⇒^お仙台・^お作並・^お山形

など産地は三十から四十位まであり、これ
らが東北土也方全部にみたれちらばって

いるのです。

またその系^{しやう}統^{とう}の中^{ちゆう}でも作者によつて違^{ちがひ}つています。

木地^{きぢ}ひきというのはろくろをまわして木で盆^{わん}や梔^し子^{くし}を作^{つく}つてくらしている。かたわらで木人形^{こにけし}(こけし)を作^{つく}つて、売^うつていたのです。だからこけし作りは富^ふ貴^き業^{ぎやう}たつたわけですね。そして、おみやげ品として温泉のあるところに出たのかもしれません。

▲東北と温泉の關係^{および}、こけしのおこり▲

東北の温泉とこけしとのかんけいでは福島土湯温泉では湯の神をたてるときにニオになる村の子供を人柱としたといつたえによつて、ニオの子供がはじ

めて湯に入る時はまずこけしを湯の神にそなえて安全をいのらなければ夜泣きをするとゆういふつたえなので親たちがかうして湯の神に、そなえるのだといわれていました。これににたいいふたえは福島県^{がく}岳^{がく}温泉山形県上ノ山などにもあり。宮城県^{みやぎ}秋保^{あきほ}温泉につたわるものは昔の様が二本のこけしを作^{つく}らせてそれぞれにあたまの上に朱色^{しゆしき}で乙^{おつ}の字を書^かいて一本は子供^{こども}の厄^{やく}よけとして川に流し、もう一本は虫よけ(子供の病^{びやう}気^き)として子供にもたせたところ、その子供が良^よく育^{そだ}つてえらくなつたといふので世の中にこのならはしかづゑもつたと

いうことです。

こけしのおこりは大体六・七百年
前と考えられています。ろくろ師が
旅をしながら自分の子供にわざわいか
おこらないようにおまもりとして作ったもの
にはじまって、何年も何年もたつて、今の
ようなものになったといわれています。
その中にも、温泉のあるところにさか
えているのは四百年以上のこととされ
ています。

▲こけしの形▲

▲こけしの形▲

こけしの形は、高さはふつう十センチ
から三十センチ位で、丸玉の豆頭と、豆頭
より、やや糸田い木奉のような月頭とで
できています。丸い頭も木奉状の月頭

も作り方によってそれぞれちがいます。

また、豆頭と月頭には赤、青、黄、むらさきな
どの中の二・三色で、かみ、まゆ、目、鼻、
口を月頭に、着物をあらわす、花もよう
がえがかれている。花は萩、ハハ
リ、上でその色はほとん、菖蒲、木梅、
紅葉、つつじ、さくらなどがかかれ、
作者によっては、月頭にろくろを利用し
て、色のついた、しまもようをきせた
のと、又、花もよう、しまをくみ合せ
たものもあります。

▲つくり方▲

形のつくり方には「造付」「差込み」「は
め込み」の三種類があります。

造付⇒一つの木で月頭と豆頭をひきわけ

ている。

差し込み⇒月同と頭^{べっ}別^{べつ}々に作り、首の
ところで差し込んで^{さしこ}いる。

はめ込み⇒差し込みに技^ぎ巧^{こう}をカ^くロ^わえて
首が自由にまわるようになっている。

材料^{ざいりょう}となる木はその土地^{しち}の方^{かた}の山にある。
木では上げ^あげ^うやすいものを用います
が、作者の女子^こみで^こ一^い定^{てい}していません
が、多くは「ミス^ミズ^スキ」「イタヤ」「チ
サノキ」「ホウノキ」などを使^{つか}っていま
す。

製造^{せいぞう}方法^{ほうほう}は岩^い城^{じょう}人形^{にんぎょう}店^{てん}に行^いって、作^{つく}って
いるところをみせていただきました。材
料は「イタヤ」「ミス^ミズ^スキ」

①作り方は、材料をまるく、きど^きり、3くろ

という機械^{きかい}にはめてはものでけ^けす^すり
ます。それから、け^けす^すたものを糸^{いと}氏^しやすりて
みがきます。

②ホスターカラーというえのぐ^{えのぐ}で、目、鼻、
口、と着^き物^{ぶつ}のもようをかきます。それに
ラッカーを^かけてつやを出^だします。
山形市^{やまがた}にも十軒^{じっけん}ばかり作る戸^とか^かあり
ます。

▲こけしの発展^{てん}▲

こけしは東北^{きたがへ}の郷^{きやう}土^ど人形^{にんぎょう}の代^{だい}表^{ひょう}で
ほんとによく地^ち方^{ほう}の良^よさをあらわしてい
るために、それを女子^{この}む^んか^かバ^{たん}沢^{さん}山^{さん}お^り
ります。

こけしの集^{しゅう}家^かといわれている人^{ひと}がそれ
です。中^なでも深^{ふか}沢^{さわ}要^{かなめ}という人^{ひと}は色々

なこけしをもとめて歩き、集めたり^{しらべたりする}こと
に半生^{はんせい}をかけました。

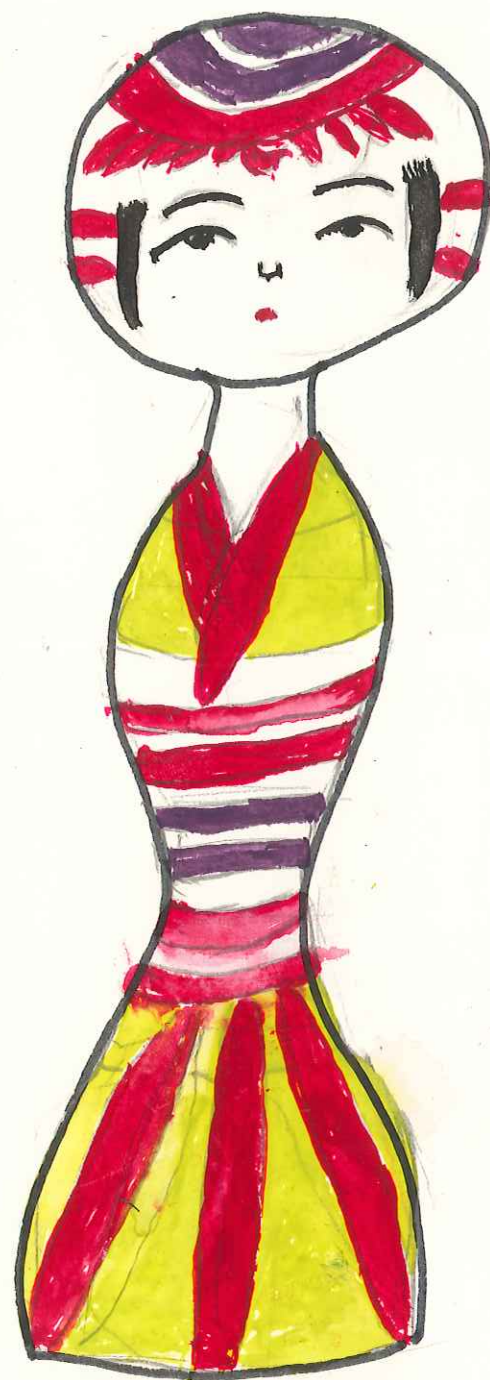
こけしは^{いま}今ではこんなに^{この}女子も人か
たくさんで、き、おみやげ^{ひん}品としても東京や、
大阪、^{きゅうしゅう}九州の^{ゆしゅう}本が買ってゆくはか
りではなく、外国のハワイやアメリカ、ヨーロ
ッパなどにも^{ゆしゅう}輸出されています。

東北のそぼくな人形だったこけしも
今は世界中に流れて行った事にな
ります。

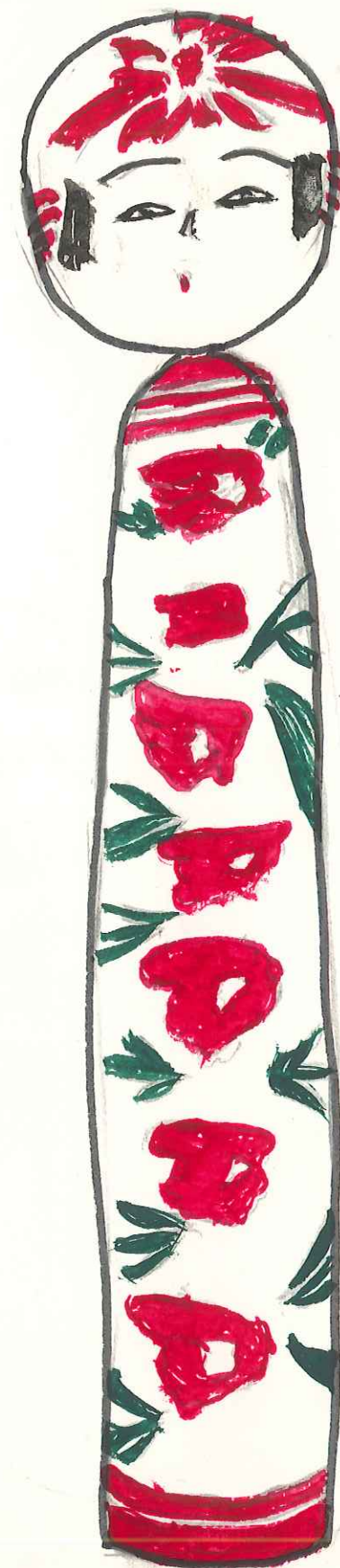
「石形とそわかったこと」

今、山形のどこのおみやげ^{てん}店でも見ら
れるこけし人形は東北の古い^{ぜんとう}伝系統の
中から生まれたもので東北どくどくのもの
たということがわかりました。又、種類も

土地や作者によってさまざまあり、
元^{もと}は木土地ひきのろくろ^し師か^{ふく}副
業^{ぎょう}につくったもので。その形はかん
たんなのですが、何ともいわれず
いいので、女子も人がたくさんあ
り、今では日本中どころか世界中に
もひろまっているのだということか
わかりました。私もこけしを集めて
いるしはたさんのところに行
っていろいろなこけしをみている
うちに、これらの人形がその土
地の昔話でもしてくれそうな気
がしました。



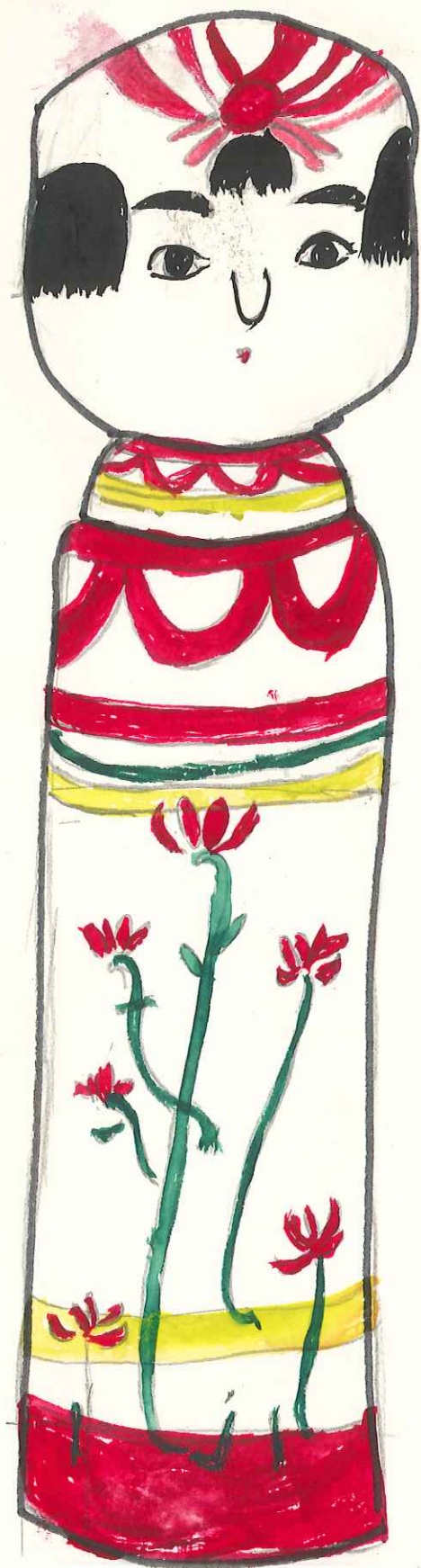
こやじろう



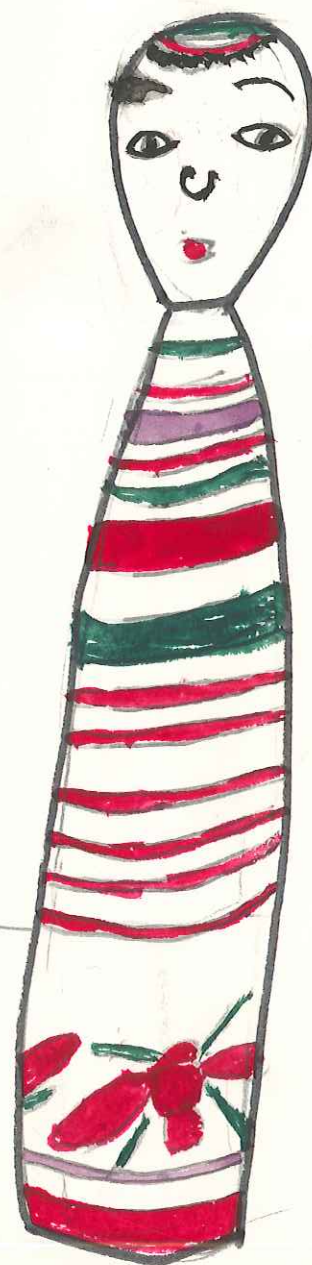
(2)
遠刈田 とおがた



鳴子
なみこ



(4) 土湯 (あつみ)

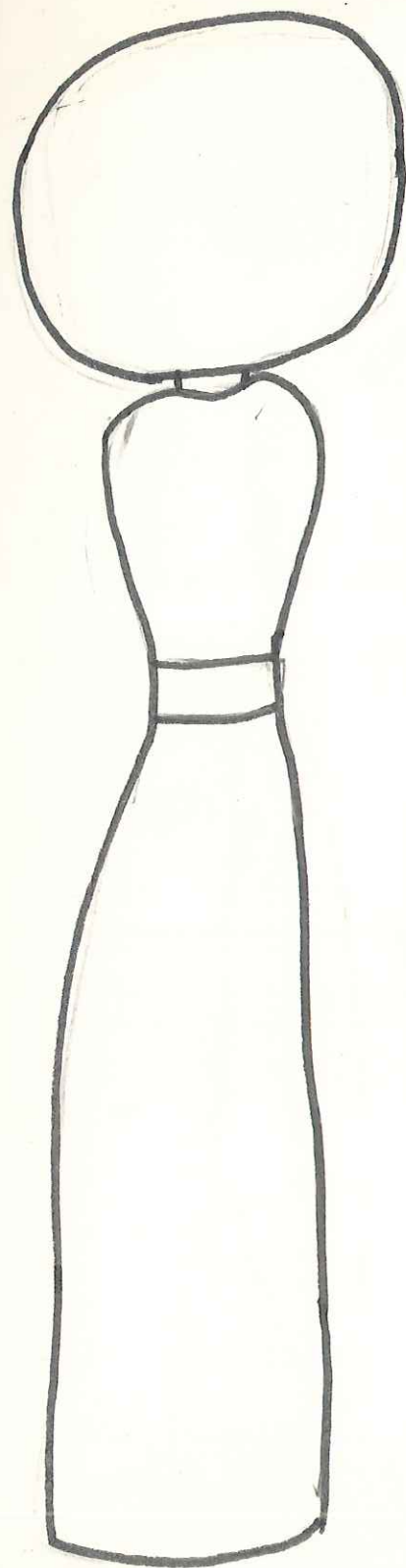


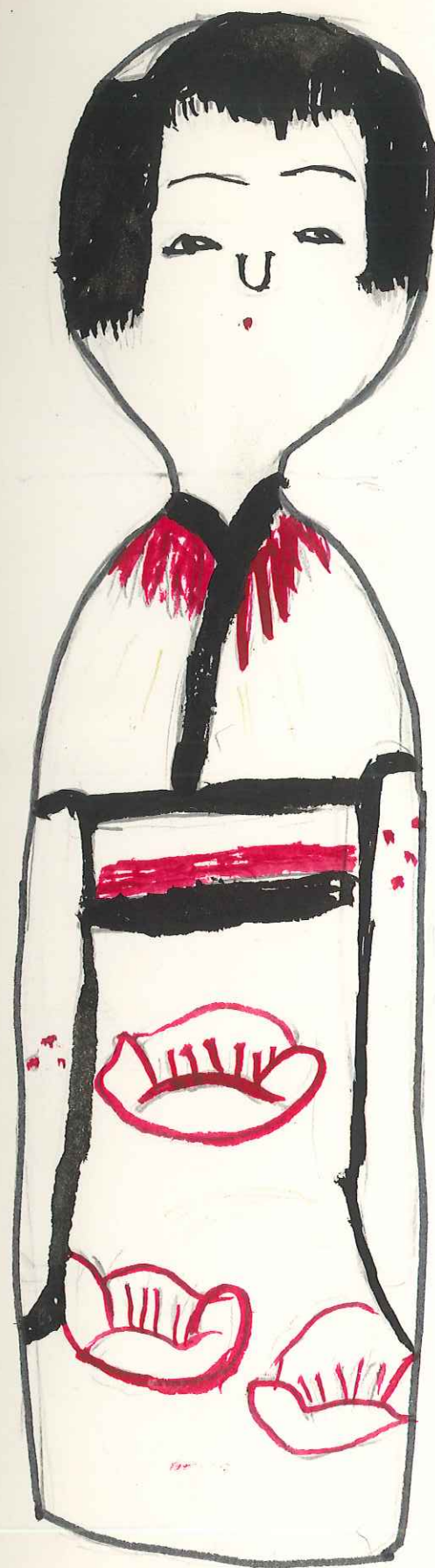
(4) 土湯(中、沢) うちゅうさかき



(5)
作並 ナミ

(南部系花卷)





（ワ）木地山



（8）津輕（ぬるゆ）
っ
か
る